

## スマート市役所の推進

### （AIを活用した案内サービス、スマートシティ等）

アナ： 「市長が語る 2020 三島」第5回の今日は、「スマート市役所の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 早速ですが、三島市では昨年、「スマート市役所宣言」をされたということですが、なぜそのような宣言をされたのか教えてください。

市長： はい。三島市では、先端技術で様々な社会課題を解決する Society5.0 社会の実現に向けて、令和元年度を「スマート市役所元年」と位置付け、これまでに AI を活用したお問合せ案内サービスの導入や RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を活用した定型業務の自動化の実証事業などに取り組んでまいりました。

そして昨年12月に、この「スマート市役所」の実現に向けた取り組みをさらに加速させるため、3つのデジタルファースト戦略を柱とする「三島市スマート市役所宣言」として、市内外に向けて発信したものです。

アナ： それでは、その宣言の内容はどういったものでしょうか。

市長： はい。AI や IoT などの先端技術やデジタルデータなどを積極的に活用するデジタルファーストにより、「便利で質の高い市民サービスの提供」、「生産性の高い行政運営」、「産業の活性化や産官学民が連携したまちづくり」などを次の3つのデジタルファースト戦略により推進するものです。

まず一つ目の柱であります「市民サービスのデジタルファースト」では、行政手続きのオンライン化などデジタル技術を活用して、市民目線で迅速、便利な市民サービスの実現を目指します。

二つ目の柱「行政運営のデジタルファースト」では、デジタルマーケティングの実践とデジタル技術の活用により、正確で生産性の高い行政運営を目指します。

三つ目の柱「まちづくりのデジタルファースト」では、産官学民が連携してデータ利活用によるスマートシティの推進など、デジタル技術などを活用して、デジタル人材の育成や、産業の活性化、市民の利便性が高いまちづくりを推進します。

アナ： 三つの戦略のもと様々な取り組みを進めていかれるということですが、今年度の具体的な取り組みを教えてください。

市長： はい。まず、業務の効率化と人手不足解消など働き方改革の推進を目的に、繰り返し行われます定型業務を自動化するソフトウェア（RPA）の導入や庁内の紙文書の削減を図るペーパーレス会議システムの導入、産官学民が連携してデータの利活用を推進する基盤整備の実証などを実施し、デジタルファーストによりスマート市役所の推進を図ってまいります。

このほかの新規事業としましては、民間企業と協働で開発し実証した「被災者支援統合システム」の運用業務や IoT を活用して河川水位を自動観測する「河川等監視装置の設置事業」、「おもてなし案内サイトの構築」や「プログラミング教育の推進」など、全庁を挙げて便利で質の高い市民サービスの提供と生産性の高い行政運営の推進に向け各種事業を展開していきたいと考えております。

アナ： 様々な分野ですので、まさに全庁を挙げての取り組みですね。先ほど、「スマートシティの推進」とありましたが、これはどのような取り組みですか。

市長： はい。これは、全市的にデジタルファーストを推進するために三島商工会議所や農協をはじめ、観光関係団体、IT ベンダーなど幅広い分野の皆様と協働してデータ利活用による新たなサービスの創出と産業の活性化など、地域課題解決を目指して取り組むものです。今後は、発足予定の「三島市スマートシティ推進協議会」にてデータや先端技術の活用などについて意見交流しながら ICT を活用したまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

アナ： 先端技術によって新たなものが生み出されると良いですね。

市長： そうですね。現在は、スマートフォンの普及などにより 私たちの生活の中に情報通信技術 ICT が便利に活用されています。この取り組みにより市民の皆様すべての人がデジタル社会の恩恵を受けることができ、人口減少や少子高齢化などの地域課題を克服し、市民が安心して便利に暮らすこと、また持続的に経済発展ができる地域づくりを図ってまいりたいと考えております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。